

令和 3 年 6 月 8 日現在

機関番号：32665

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K04210

研究課題名(和文) 高等教育への障害者のアクセス 日米の国際比較を通じて

研究課題名(英文) Access to Higher Education for Persons with Disabilities-Through an International Comparison of Japan and the United States

研究代表者

吉田 仁美 (YOSHIDA, Hitomi)

日本大学・文理学部・准教授

研究者番号：20566385

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：当初の研究目的に沿って、ジェンダー統計視点を含めて、研究を進めることができた。(1) 先行研究より、米国及びヨーロッパ諸国の高等教育の障害者支援の歴史を確認した。(2) フランスの高等教育の障害者支援室の現地視察とヒアリングを実施し、障害者支援の内容、フランスにおける障害者支援の現状と課題を把握した。(3) このテーマに関して日本国内で大きな関心事となっている発達障害者を対象とした学生支援とキャリア支援に着目し、現状と課題を明らかにした。(4) 統計資料を参考にアメリカ、カナダ、イギリスの障害者ジェンダー統計の特徴を整理し、日本の障害者ジェンダー統計整備の課題を整理した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、高等教育への障害者のアクセスの国際比較を行った。その際、これまであまり着目されてこなかった障害とジェンダーの視点に注目し、分析・検討を行った。従来の高等教育研究や障害者福祉研究では取り入れられてこなかったジェンダー視点を積極的に導入することにより、障害者支援にジェンダー、社会階層の視点を取り入れながら支援を進めていくことや障害者政策にジェンダー視角が必要であることを指摘することで先行研究への貢献を目指した。

研究成果の概要(英文)：I proceeded with our study including the viewpoints of gender statistics in line with the initial purpose of the study. (1) I confirmed the history of higher education support for persons with disabilities in the United States and European countries by reviewing the literature and preceding studies there. (2) I conducted fieldwork and interviews with the French Higher Education Support Office for Persons with Disabilities. I grasped the contents of support for persons with disabilities and the current situation and issues of support for persons with disabilities in France. (3) I focused on student support and career support for people with developmental disorders, which has become a major concern in Japan on this subject, and clarified the current situation and issues. (4) I organized the characteristics of gender statistics for persons with disabilities in the USA, Canada, and the U.K. with reference to statistical data.

研究分野：社会福祉学、ジェンダー

キーワード：障害 障害者 障害者統計 ジェンダー 教育統計 労働統計

1. 研究開始当初の背景

近年の日本の高等教育は、急激な大衆化、多様化、国際化によって大きな転換を迫られている。今後の日本の高等教育は、「大衆化」の段階を超えて、成人人口のほとんどすべてが、学校だけでなく家庭や職場で継続的に学ぶ機会を確保する社会に移行しつつあることも予測されている。他方で、障害者やマイノリティ、多様な社会人の高等教育へのアクセスや環境醸成や支援は、近年、UNESCOの“Education for All”のスローガンにてらして、また、日本においても少子・高齢社会の進展に伴い、障害者の社会参画を前提とした教育の充実が求められてきている。しかし、本研究が対象とする障害児・者が社会的な制限を受けることなく、教育機会（特に高等教育へのアクセス）が保障されているとは言い難い。本研究はこうした流れに呼応して、世界で最も早く高等教育における障害者支援を整備してきた米国の高等教育の先進事例や多様な学生たちへの支援を行っているヨーロッパ諸国の高等教育の障害者支援、それから豪州の支援から学び、日本への示唆を得ることを主な目的としている。このプロセスには、高等教育政策学と社会福祉学の視点がともに求められ、その他の学問領域からのアプローチを試みた学際的研究を積み重ねていく必要がある。このことに関連して、諸外国の高等教育の障害者支援の研究は障害者支援のみならず、多様性やジェンダー、ユニバーサルデザインに関する研究の蓄積が日本以上にある。すなわち幅広い視点から当事者のニーズを掘り下げることを意識して進められている。民族の多様性や、外国人の受け入れに関して柔軟である米国やヨーロッパ諸国、カナダ、豪州等は日本と大きく異なるが、こうした違いを踏まえながら諸外国の先進事例から学ぶ意義は大きい。というのも日本では障害者差別解消法が2016年4月から施行され、この法律によって国公立大学は障害学生に対して合理的配慮を提供することが義務づけられた（現時点では私立大学は義務）。これらの法制度は障害者権利条約の第24条を反映させたもので、今後、この政策を具体化するために様々な政策を検討することが求められているからである。

2. 研究の目的

そこで本研究の目的は以下の通りに設定した。第一に、海外の高等教育の障害者支援の現状を文献や関連資料でレビューをすること、第二に、海外の大学及び統計機関へのフィールド調査を実施すること、第三に、このテーマに関して日本国内で関心が高まってきている高等教育における発達障害者支援の現状と課題を把握・検討すること、第四に、高等教育における障害者支援にジェンダー視点を積極的に取り入れる可能性を探ることである。さらに、目的の第三に関連することであるが、最終的にこの分野においてどのような統計が必要なのかを国際的なデータを収集・把握しながら検討・分析する必要があると考えている。とりわけ、統計整備が進んでいる米国、カナダ、豪州、英国、アイルランド等の関連統計を収集し、研究課題を深めていくことも検討している。この研究を進めることにより、教育のジェンダー平等を可能にするためにはどのようなアプローチが有効であるか検討する必要があると考える。この点については、国連やUNESCO・NGOの取り組みから、最新の国際的動向に常に目を向けながら探っていきたい。本研究は高等教育をフィールドにしているが、高等教育に焦点を当てるだけでなく、高等教育以前の教育、すなわち就学前教育、初等教育、中等教育の積み重ね、そして卒業後のキャリア、生活

課題といったように範囲を広げながら研究を進めていきたいと考えている。そのことが障害者の生活の QOL の向上につながると思われるからである。

3. 研究の方法

本研究の方法は以下の通りである。第一に、諸外国の高等教育の障害者支援について主に先行文献レビューを進め、加えて諸外国の障害者政策に関する政府統計、民間や大学等の大規模調査の分析、文献レビューを行い、ジェンダー視点から分析した。第二に、現地でのヒアリング調査を実施した。

4. 研究成果

第一に、文献レビューを実施し、適宜、研究会での報告を行った。このテーマに関して、米国の代表的な文献や論文では近年、社会階層にも関心が向けられていることが確認できた。例えば、経済的に特権のある家族や地域社会で育てられた学習障害のある学生は、家族や地域で育った財源が不十分な学生とはまったく違う障害を経験していることが明らかにされ、これは日本でも同じような傾向が指摘されている。第二に、国外ではフランスのパリ大学の障害者支援室を訪問し、現地視察とヒアリング調査を実施した。フランスでは、近年は精神障害者支援の関心が高まってきていることやその背景に経済的な要因や家庭環境の問題があることが指摘された。米国の文献で明らかにされたことは今や先進国共通の課題であることが理解できた。第三に、発達障害者支援について国内のいくつかの大学の支援内容を資料等で分析し、さらに現地でのヒアリング調査を実施した。発達障害者支援を充実させていくための方策のひとつに本人の的確なニーズを掘り下げするためのアセスメントの重要性が指摘できる。そしてこの分野の専門家の養成も課題にあがっていることが明らかにされた。第四に、障害者ジェンダー統計整備が世界で最も進んでいると思われるカナダの障害者ジェンダー統計の変遷と現状について資料をもとに分析した。カナダの障害者調査では、質問項目の作成から調査結果の分析に至るプロセスにおいて、一貫して環境要因にアプローチする社会モデルの観点から採用していることが理解できた。具体的には多重クロス集計分析の手法を用いることにより、障害者のおかれている状況が把握可能となっている。このプロセスには障害当事者と作成者の議論の積み重ねがあることがわかり、この点が日本と大きく異なることが理解できた。国際的に社会モデルが障害者福祉の潮流となりつつある中で、また、障害者権利条約等の国際的文書に照らし合わせても、日本でも社会モデルの観点から障害者福祉関連の環境を整備することが期待されている。その意味においてカナダの障害者ジェンダー統計から学ぶ意義は大きいと考える。

以上を踏まえて今後の課題として、日本において高等教育の障害者支援を推進していくとともに社会階層やジェンダーの視点をさらに掘り下げていくことが求められる。今後もこのテーマで研究を続けていきたいと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 吉田仁美	4. 巻 7
2. 論文標題 女性活躍推進が地域活性化に与える影響	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 岩手県立大学地域協働研究 研究成果報告書	6. 最初と最後の頁 18 - 19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田仁美・佐藤千晶	4. 巻 21
2. 論文標題 聴覚障害女性の子育て生活における課題の一考察 複線経路・等至性モデル（TEM）を用いて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 岩手県立大学社会福祉学部紀要	6. 最初と最後の頁 69-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田仁美・盛岡市	4. 巻 なし
2. 論文標題 平成30年度盛岡市女性活躍推進に関する事業所調査調査研究報告書	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 岩手県立大学吉田仁美研究室・盛岡市	6. 最初と最後の頁 1-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田仁美	4. 巻 20
2. 論文標題 国際的な障害統計の取り組みについて ワシントン・グループの活動を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 岩手県立大学社会福祉学部紀要	6. 最初と最後の頁 83-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 佐藤千晶・吉田仁美
2. 発表標題 聴覚障害のある父親の子育て生活における課題の一考察 複線径路・等至性モデル（TEM）を用いて -
3. 学会等名 日本子育て学会第11回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉田仁美
2. 発表標題 国際的な障害者統計の諸問題
3. 学会等名 経済統計学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 YOSHIDA HITOMI, SATO CHIAKI
2. 発表標題 A Study of Sustainable Childcare Support for Deaf Women in Japan:A case Analysis of Interview Survey
3. 学会等名 19th ARAHE Biennial International Congress 2017（国際学会）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

吉田仁美 研究者総覧 http://souran.iwate-pu.ac.jp/html/100000360_ja.html

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------